徳島新聞　２０２１年（令和３年）７月２９日　木曜日（１７）スポーツ掲載
徳島新聞社提供

全国高校総体 北信越 第4日

吉田（生光学園）2位

喜多（生光学園）3位 男子ハンマー

全国高校総合体育大会（インターハイ）第4日は28日、福井県営陸上競技場などで行われ、陸上男子ハンマー投げで吉田匠（生光学園）が61㍍47を投げ、2位に入った。60㍍43の喜多翼（生光学園）が3位で続き、徳島県勢が表彰台で並んだ。

女子400㍍リレー予選では、鳴門渦潮（福桑美紅、前川七海、田本凜、渡辺ひなた）が46秒70の県新、四国高校新をマークし、29日の準決勝に進んだ。女子ハンマー投げは村上来花（青森・弘前実）が59㍍00の大会新で優勝。400㍍の男子は鈴木大翼（新潟明訓）が47秒33、女子はタネル舞璃乃（埼玉栄）が54秒42で制した。池田辻が登場する予定だったソフトボール女子は、1回戦が雨天のため29日に順延となり、31日に予定されていた準決勝と決勝は中止になった。

陸上（福井県営陸上競技場）

◇徳島県関係

【男子】400㍍予選1組⑥藤本湖太郎（徳島市立）48秒89＝落選▽7組⑧綾部幸士（城北）49秒51＝落選▽1500㍍予選2組⑭奥田颯皇（徳島学院）4分1秒77＝落選▽400㍍リレー予選5組⑦鳴門渦潮（月川、中塚、森谷、村田）44秒44＝落選▽ハンマー投げ予選1組①吉田匠（生光学園）59㍍54④喜多翼（生光学園）56㍍94＝以上決勝進出⑩末畠之介（生光学園）50㍍71＝落選▽同決勝②吉田匠（生光学園）61㍍47③喜多翼（生光学園）60㍍43

【女子】1500㍍予選3組⑬我井那奈（鳴門東）4分35秒89＝落選▽5000㍍競歩予選1組⑭板垣穂佳（鳴門東）25分53秒71＝落選▽400㍍リレー予選1組⑤鳴門（花木、藤巻、千代田、福島）48秒36＝落選▽3組②鳴門渦潮（福桑、前川、東、渡辺）46秒70＝県新、四国高校新、準決勝進出

男子ハンマー投げ決勝　自己ベストを3㍍以上更新する61㍍47で2位に入った生光学園の吉田＝福井県営陸上競技場（立花善晴撮影）

無欲で自己ベスト

吉田

男子ハンマー投げは大舞台で自己ベストを3㍍以上も更新した生光学園3年の吉田が2位に輝き、3位に入ったチームメートの喜多と共に徳島県勢として今大会初の入賞を果たした。吉田は「予選通過だけで十分だったのに、メダルまでもらえるとは思わなかった」と無欲の勝利の喜びに浸った。

上位15人で争った決勝の1投目。「ファウル覚悟で思い切って投げた」ところ、いきなり予選で出した自己ベストの59㍍54を超える60㍍23で全体の2位に躍り出た。3投目に60㍍27をマークすると、最後の6投目では61㍍47へとさらに記録を伸ばした。

最後の投てきの前に林監督から掛けられた言葉は「全力でいけ」。距離を伸ばそうとして回転速度を上げるよりも、練習で固めてきたフォームを意識した。その結果、1、2回目の回転の初速が上がり、好結果につながった。

神戸市の高倉中出身。陸上部で砲丸投げをしていた。母親の実家が鳴門市だった縁で、本格的に投てき種目に取り組もうと生光学園の陸上部へ。3年時のインターハイに出場することを目標に、寮生活をしながら着実に力をつけてきた。

大会前の自己ベストは58㍍。今年1月に体調を崩し、投てきの投げ込みができなかった。3月に練習を再開し、上位入賞を狙える記録を出せていなかっただけに「監督や競技活動を支えてくれた全ての人に恩返しができた」と銀メダルを手に胸を張った。（須貝千次郎）

60㍍43で3位となった生光学園の喜多

努力は報われた

○…男子ハンマー投げの決勝でチームメートの吉田が60㍍超えの好記録を連発する中、1、2投目が55㍍にも届かず、精彩を欠いていた喜多が4投目で本来の力を発揮。自身の持つ61㍍97の県高校記録には及ばなかったものの、銅メダルを獲得して面目を保った。

4投目の記録は60㍍43。吉田の記録を上回っていきなり2位に躍り出たが、6投目で逆転されて手にしかかった銀メダルを逃した。「2人でメダルを獲得できたのはうれしいけど、負けたことは悔しい」と率直な思いを口にした。

吉田とは良きライバルとして高め合ってきた。林監督は「調子の上がらない中での60㍍超えで、3年間の努力が報われたのではないか」と、苦しみながらも結果を残した教え子をねぎらった。